

# 教室「らんまん」ワールドに

■一宮小(高知市)



①教室で大人気の「らんまんすべり台」。五台山をイメージして、児童が色を塗った。谷雄二教諭と一緒にすべって楽しむ(写真はいずれも高知市の一宮小学校)  
②不織布の花びらがふわりと舞うコーナー。満開の桜に見立てて飾り付けされている



(随時掲載)

NHK連続テレビ小説「らんまん」にちなんだユニークな教室が高知市一宮西町一丁目の一宮小に登場し、子どもたちが歓声を上げて楽しんでいる。

同校の特別支援学級「しなね学級」(全6学級)の教員と児童たちが生活単元学習などの一環として4月上旬から準備。一室をまるごと使い、牧野富太郎博士ゆかりの五台山に見立てたすべり台、半透明のビニールに囲まれた「温室」など多彩な遊び空間に生まれ変わらせた。

「復活ロプーウェイ」と書かれたコーナーは、半世紀前に五台山で運行されていたロプーモノレールをモチーフにしたもの。ボードに座って坂道をすべり、「国分川」と書かれた場所をすいーっと越えていく。

「桜の花びらを散らしたい」という児童のアイデアから、不織布製の花びらを送風機で飛ば

児童が作った教室入り口のかわいい飾り付け



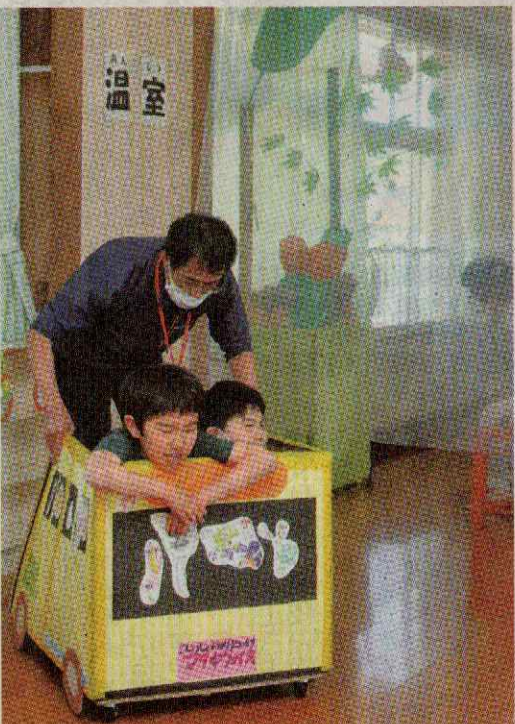
す装置も。児童の絵を貼った段ボールや板、車輪で作った「MY遊バス」も手動で走り回っている。

児童は昨年度から牧野博士について学んだり校内の植物を観察したりし、室内を飾る花々も折り紙などで作った。すべり台の基となる鉄パイプの組み立てやマット敷設などは、安全性に配慮して教員が担当した。

知的障害特別支援学級担任の谷雄二教諭(54)は「遊ぶ中で子ども同士が仲良くなったり、上級生から下級生への見守りなども見られます。没頭できることを大切にし、『学校って楽しい』と思ってほしい」と活動に込めた思いを話す。

これらの手作り遊具は1学期いっぱい設置。校内外のほかの学級なども招待して、交流の場にもしていく考えだ。

(松田さやか)



「MY遊バス」に乗って、教室内の遊びスポットを巡る